



埼玉県飯能近辺の山というよりもお寺である。正式には子ノ権現天龍寺というらしい。山頂には茶店もあるがあまりはやっていないとはいいい難い。神仏混合の時代からあるのでどっちが中心なのかわかりにくい。無理に分けよう

とすることが無理なのかもしれない。山頂まで舗装道路があるので車で行くことも可能であるが、もちろん我々は歩いた。ここはお願いをすると運を運んでくるという意味で足元を強くするというわらじの奉納があったりする。ハイヒールが飾られていたこともあるというが、真偽のほどは解らない。頂上は東京方面を

略縁起

子ノ権現ホームページより

当山は、延喜十一年(九一一)六月十三日、子ノ聖が初めてこの地に十一面観音をお祀りし、天龍寺を創建されたことに始まります。その後、弟子の恵聖上人が子ノ聖を大権現と崇め、子ノ聖大権現社を建立されました。現在の和歌山県天野の地に生まれた子ノ聖は、生来才知するどく仏教に通じ、生誕が子年子月子日子刻であったため人々に子ノ日丸と呼ばれ、長じては各地行脚の後当山を開かれました。聖は昇天の折、「我、化縁につきぬれば寂光の本土に帰るべし。然れども、この山に跡を垂れて永く衆生を守らん。我登山の折、魔火のため腰と足を傷め悩めることあり。故に腰より下を病める者、一心に祈らば、その験を得せしめん。」と誓いをたてられました。以来、足腰守護の神仏として信仰されています。



向いているのでスカイツリーが見える展望台もある。この日は曇りであったが、よく見るとこんな日でも見る事ができた。都心の高層ビル群も見えた。私のカメラではダメであったが、一眼レフを持っていた人はデジカメに写していた。金持ちにはかなわない。正月に行ったら都心がくっきりとよく見えるはずだ。



この日の参加者はジジイが 6 名で、ババアが 22 名。バスもいつものよりも 3 サイズくらい

大きかった。毎月の 13 日前後は登山の日（つまりトー・サンの日）としているらしく、難易度の低い山が選ばれているようである。誰が決めたのだから知らないが、まいたびもこれに合わせているみたいだ。という訳で、いつもより参加者の年齢も高く、この日ばかりはこの俺も若輩の仲間入りができた。こんなところでもぼてている人がいたので、こういったコースを作る意義もあるのではないかと思われる。まあまだこの人たちの仲間入りはしたくないが、来年になると年齢制限が適用されるらしく、望まなくてもこの仲間にさせられてしまうのかも知れない。

この日のツアーリーダーは超大御所の倉田さん。定年になったのでこれからはツアーリーダーが増えるかもしれないと言っていた。サブは関根のおぼちゃん、まだ経験 2 か月というおじさんになりたて位の山添さん。まいたびのガイドも新陳代謝が激しくなってきた。

今年はこれで山登りじまいである。35・49・32・32・27、この 5 年間の山行日数変化である。だんだん少なくなってきた。今年は長年来の山友達であった今村隆一を亡くした。哀しい年になってしまった。

マルコメのモデルのような地藏さんやスタイル抜群の観音様などたくさんの地藏さまや仁王様などがあった。



六角地藏





マルコメ地蔵



スタイル抜群地蔵

